

精神疾患、専門家、双極性障害、責任1

精神疾患で私が入院したのは17歳の時で、その後良くなったり悪くなったりした状態が続いた。服薬し適度な運動と睡眠を取るよう努力したが、常に穏やかな航海ばかりではなかった。去年の春、警告もなくすべてが変化し、重度の抑うつとなった。数か月後、新薬と認知行動療法のおかげで回復したが、愛と支えと信仰と神の恵みも有益であった。気分がよくなると自分が双極性障害を有していることを公表する必要性を感じなくなった精神疾患に対する誤解が大いにあることに不満を感じたが、自分は幸せな方だと言いつけてきた。

去年の6月、精神疾患による長年の闘病の末、妹の友人とその夫が自殺を図った。私は精神疾患にまつわる汚名や恐怖に反撃したいと考えている。精神疾患は恥ずかしいものであり秘密にすべきものであるという考えは止めなければならぬ。アメリカでは成人5人に一人がある一定の時期に重篤な精神病と診断され5%が日常生活が障害されている。われわれは臨床家として、精神病が正確に診断され治療されることを保証する状況を築く責任がある。私は自分の個人的経験が精神病に苦しんでいる人々の支援について直す一助となることを願っている。

Mental Illness: My Personal Experience, Our Professional Responsibility

Frances E. Likis, CNM, NP, DrPH, FACNM, FAAN, Editor-in-Chief

J Midwifery Women's Health. 2014 Mar-Apr;59(2):111-112

臨床診療、ガイドライン、保健政策、家庭分娩、低リスク、正常分娩3

認定看護助産師 (CNM) および認定助産師 (CM) のための全国家庭分娩ガイドラインが実施されれば安全な家庭分娩が促されるのではないかとと思われる。ガイドラインは患者のニーズや状況に合わせ活用できる根拠に基づいた勧告である。数か国の家庭分娩のガイドラインを検討し、アメリカ版の家庭分娩のガイドラインの草案を作成した。ガイドラインの草案には患者のスクリーニング、同意、妊婦健診、ルーチンに行われる分娩時のケア、産科的合併症、病院搬送、分娩後のケア、新生児のケア、婦人科的ケア、プライマリーケア、仲間レビュー、記録、医師との連携などを取り上げた。

検討会ではこのガイドラインが国際基準と最新の根拠を反映しているか否かという点について検討が加えられた。当初、問題となった懸念は全国ガイドラインの採用がケア提供者の自律性を低下させるのではないかとあった。根拠に基づいてガイドラインをまとめることはACNMの基本でもあり、家庭分娩コンセンサスサミットでも勧告されている。臨床におけるケアガイドラインは最新の根拠を反映しており、各分野の専門家により支持されている。ガイドラインに沿ったケアを実施することで最適な患者のケアが保証され、今後はこのガイドラインが医療費の補償などの面においても活用され、また、法的な問題に関しても支援を与えることになるのではないかとと思われる。

最新の根拠と国際基準を満たしたガイドラインはアメリカの認定看護助産師と認定助産師により開発されレビューされたものである。レビューを試みたものの中で草案のレビュー前と比べレビュー後において、家庭分娩ガイドラインに対する支持がやや低下したということを考え、家庭分娩ガイドラインの実施に当たってはさらに家庭分娩に携わる助産師とその他の関係者との間で議論を進めることが必要である。

Formulating Evidence-Based Guidelines for Certified Nurse-Midwives and Certified Midwives Attending Home Births

Elizabeth Cook, CNM, CPM, WHNP, DNP, Melissa Avery, CNM, PhD, Melissa Frisvold, CNM, PhD

J Midwifery Women's Health. 2014 Mar-Apr;59(2):153-159

予防接種、予防接種諮問委員会、ワクチン、投与計画10

毎年、予防接種諮問委員会 (ACIP) は予防接種のシステムをレビューし、推奨するワクチン、投与回数、投与時期、注意事項、禁忌などについて報告している。ACNMは2014年度の成人の予防接種の推進に向け連携し活動している。このスケジュールは臨床家や患者へのリソースとしてウェブからも見ることができる。女性に予防接種を勧めることは女性自身だけでなく、その家族や地域社会にとっても有益である。予防接種のスケジュールは毎週報告される疫学情報でも見ることができるが、今回、特に本誌でも取り上げることにした。成人の予防接種の重要性を読者に知らせ、根拠に基づいたケアを提供するために必要とされる情報を提示した。

Recommended Adult Immunization Schedule-United States, 2014

Centers for Disease Control and Prevention

J Midwifery Women's Health. 2014 Mar-Apr;59(2):205-209

出産、尊厳、自律的決定、母親の願望15

出産慈善団体であるBirthrightが全国調査に基づいて出産に伴う尊厳に関するキャンペーンを開始した。希望通りの出産を経験したものは半数に至らず、多くのものは出産に関わる選択が尊重されていなかった。尊重とはヘルスケアの専門家との関係を通して発揮されるもので、それぞれの人の名誉を守ることである。尊重されたケアとは自らの選択肢が受け入れられ積極的に支持されるような状況と定義される。母親の声を聞く調査のデータでは女性の14%がよい処遇を受けなかったと回答している。あらゆるサービスへのアクセスが可能でなければ女性の自律は制限され効率を目的とした出産になる恐れがある。母親の声を聞く調査によると大部分の産科的ケアは最善の根拠や最善のケアで支えられているわけではない。重要な点は安全な産科的ケアを提供し、女性への尊厳を維持し母児の安全を図ることである。アメリカの産科的ケアを再構築する必要がある、そのために様々な人々と連携した研究が必要である。

Dignity in Childbirth

Nancy K. Lowe, Editor

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Mar/Apr;43(2):137-138

中心静脈カテーテル、合併症、新生児、敗血症、看護16

新生児における臍帯中心静脈カテーテルと末梢中心静脈カテーテルに伴う合併症を比較し、どのような要因が合併症の上昇と関わっているか検討した。第三次医療機関のNICUで後方視的観察研究を施行し、新生児における静脈カテーテルが関わる合併症を分析した。2種類の中心静脈カテーテルに伴う合併症を理由にカテーテルを抜去した割合をKaplan-Meier生存分析を用いて調べた。140例の臍帯静脈カテーテル群と63例の末梢中心静脈カテーテル群を調査の対象とした。

2種類のカテーテル法に伴う合併症による抜去の割合に差は認められなかった。中心ラインの挿入に伴う血液の汚染が最も頻度の高い合併症で、次いで閉塞、位置の異常、血管外漏出などが認められた。合併症の発現率に対する妊娠週数、生下時体重、2度目のカテーテルの使用などによる影響は認められなかった。合併症の発現率はカテーテルの抜去率と比較したが2群間で差は認められなかった。合併症を予防することはNICUの児のケアにおける重要な努力目標である。

Comparison of Complication Rates Between Umbilical and Peripherally Inserted Central Venous Catheters in Newborns

Inge Johanna Jacoba Arnts, Lauren Maria Bullens, Joannes Martinus Maria Groenewoud, and Kian Dijen Liem

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Mar/Apr;43(2):205-215

外陰皮膚疾患、薬理的治療、外陰のケア25

外陰皮膚疾患は女性によく認められ、その有病率は加齢とともに上昇する。治療により症状の緩和が得られ疾患の進行を止めることもできる。いくつかの治療法があり、女性をケアする看護師は外陰皮膚疾患とその治療法について理解を深めておく必要がある。本論文では一般的な外陰ケア、4つの外陰皮膚疾患、一般的な治療法および局所管理と全身管理を含めその概要について述べる。

Therapies and Nursing Care of Women with Vulvar Dermatologic Disorders

Deborah Lipkin and Yanghee Kwon

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2014 Mar/Apr;43(2):246-252